

都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設を整備
～ 旧赤羽台団地 ～

独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」という。）は、旧赤羽台団地（東京都北区）において、令和4年度開設を目途に都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設の整備を進めていくことといたしましたので、その概要をお知らせいたします。

□情報発信施設の整備について

戦後大きく成長した日本も時代は変わり、人口減少や少子高齢化が進み、AI・IoTなどの技術革新も目覚ましいなど、時代の転換期を迎えています。

UR都市機構は、都市・街づくりに関わりながら、「団地」という集合住宅の暮らしを創造してまいりましたが、これからも「令和」の時代にふさわしい「新しい暮らし方」を創造していきたいと考えています。

現代の都市や街の成り立ちと団地や集合住宅の歴史を学ぶことに加え、民間企業等への提案フィールドの提供など多様な連携のもとで、これからの「新しい暮らし方」を創造する、これまでにない総合的な情報発信施設を、戦後高度経済成長期の日本を象徴する代表的団地である旧赤羽台団地の地に整備いたします。

○施設イメージ①（再現住戸と各種展示、施設内からスターハウス住棟を望む）



【 本件に関するお問い合わせ先 】

独立行政法人都市再生機構

技術・コスト管理部技術調査課 電話：045-650-0705

広報室 広報課 電話：045-650-0887

1 情報発信施設のコンセプト

①都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する

- ・ 集合住宅の暮らしの象徴である団地から、日本の都市の成り立ちや現代のライフスタイルを紐解きます。
- ・ 保存住棟をフィールドとして、多様な企業や教育機関等と連携のもとに改修技術や未来の集合住宅の暮らしを表現、提案します。

②新しい体験スタイルの創出

- ・ 旧赤羽台団地に保存するスターハウスや、再現した過去の代表的住戸などの実物空間に暮らしを表現。直感的に体験できるアクティブな動態展示を行います。
- ・ スターハウス内に未来を描く提案住戸を展開するなど、「保存」と「創造」が融合した「ミュージアム&Lab.」。

2 施設整備の概要

- ・ 開設時期：令和4年度（予定）
- ・ 場 所：旧赤羽台団地（東京都北区赤羽台1）
- ・ 施 設：新館
保存住棟：旧赤羽台団地41号棟（地上5階、374㎡）、
42～44号棟（地上5階、各148㎡）
- ・ 主な展示：①再現住戸（晴海高層アパート、赤羽台スターハウス住戸、
代官山同潤会アパート、等）
②都市の成り立ちや集住（団地）の暮らしの歴史と変遷
③保存住棟内に展開する提案住戸 などを予定。
※上記は予定であり、今後の行政協議等により変更になる場合があります。

○施設イメージ②（展示空間の様子、最新の展示技術を活用）



○旧赤羽台団地保存住棟



○代表的住戸の再現



代官山同潤会アパート



晴海高層アパート

※現在は集合住宅歴史館（八王子）にて公開中。<https://www.ur-net.go.jp/rd/index.html>

○案内図



情報発信施設の整備を行うエリア